

水害リスクを自分事化し
流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会
— 事例紹介 —



西日本豪雨3年

ありがとう

西日本豪雨発生から3年に合わせ、山陽新聞社では被災された方や被災地に家族がいた方、被災地への支援に携わった方から、豪雨にまつわるエピソードを募りました。お寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。



『地元の消防団へ、ありがとう』

自宅1階が浸水し、2階に避難したが、



『今を生きる』

私たちの先輩が倉敷市直備町地区の岡田



『避難所で近所の人に会えほんと』

豪雨時のアルミ工場大爆発 「何が起き



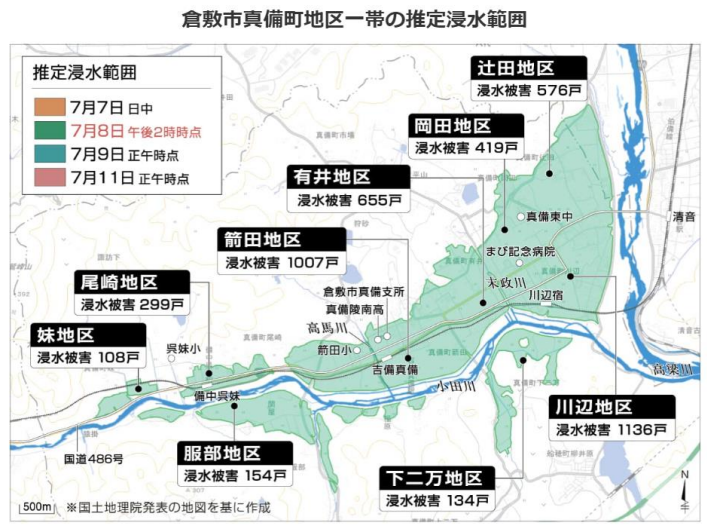
『“ディカプリオさん”に感謝♡』

一生に一度あるかないかの、どえらい体

発生当時 1か月後 3年後



発生当時 1か月後 3年後



当事者メッセージ

ストレート・ニュース

写真・映像

図表データ

リアルな情報・気づきの共有

- 7月6、7日の出来事
- 6日
 - 11:30 倉敷市全域の山沿いに「避難準備・高齢者等避難開始」発令
 - 22:00 真備町地区に「避難勧告」発令
 - 22:10頃 小田川の観測所(矢掛町)で氾濫危険水位(3.2メートル)を超える
 - 22:40 倉敷市に大雨特別警報
 - 23:45 小田川南側に「避難指示」発令

- 7日
 - 0:47 国土省岡山山河川事務所に倉敷市に小田川の越水を連絡



事例2. 茨城新聞社「いばらき防災キャンペーン2021」

<https://bousai.ibarakinews.jp/bousai2021.php>

茨城新聞社は東日本大震災の発生から10年となる2021年、創刊130周年記念事業「いばらき防災キャンペーン2021」を実施。

近年、大きな自然災害が相次ぎ、「災害への備え」に関心が高まっています。新型コロナウイルス感染症という「新たな災害」も課題となっています。東日本大震災から10年になるのに合わせ、こうした防災の大切さについて改めて考えよう、というのがキャンペーンの趣旨です。

特集紙面のご案内

2月25日掲載
テーマ：地震・津波①

3月11日掲載（別刷特集）
テーマ：東日本大震災10年

3月24日掲載
テーマ：地震・津波②

4月30日掲載
テーマ：感染症

5月28日掲載
テーマ：風水害①

6月25日掲載
テーマ：風水害②

特集掲載記事紹介

自然災害伝承碑を訪ねて ①

自然災害伝承碑を訪ねて ②

東日本大震災 10年前の記憶 生々しく

液状化対策対策工事急ピッチ 地下水を排出
安心安全確保 潮来、鹿嶋、神栖3市

防潮堤整備 住民の命 生活を守る 不安拭う

家庭の備え 県防災士会3人に聞く 日頃から
自助意識を

県防災・危機管理課 飛田聡志課長 県民の
安全へ啓発に力

県の備蓄 22万食 本年度中完了

集積配送拠点を整備 支援物資を円滑供給

日頃の備え、被害最小限

防災ハンドブック



◇仕様	A5判48ページ フルカラー
◇発刊日	2021年6月予定
◇発行部数	約10万部

アーカイブで **学び**



協賛社と連携・ **行動**へ

特集紙面のご案内

2月25日掲載
テーマ：地震・津波①

3月11日掲載（別刷特集）
テーマ：東日本大震災10年

3月24日掲載
テーマ：地震・津波②

4月30日掲載
テーマ：感染症

5月28日掲載
テーマ：風水害①

6月25日掲載
テーマ：風水害②

特集掲載記事紹介

自然災害伝承碑を訪ねて ①

自然災害伝承碑を訪ねて
東日本大震災 10年前の記憶 生々しく

液状化対策対策工事急ピッチ 地下水を排出
安心安全確保 潮来、鹿嶋、神栖3市

防潮堤整備 住民の命 生活を守る 不安拭う

家庭の備え 県防災士会3人に聞く 日頃から

県防災士会3人に聞く
安全へ啓発に力

県の備蓄 22万食 本年度中完了

集積配送拠点を整備 支援物資を円滑供給

日頃の備え、被害最小限

自分の命、自分で守る 自宅での被災軽減を

自助・共助の再確認を

東京海上日動 子どもの避難行動促す

いばらき防災
東京海上日動 子どもの避難行動促す

防災ハンドブック



**家庭の備え 県防災士会3人に聞く
日ごろから自助意識を**

◇仕様	A5判48ページ フルカラー
◇発刊日	2021年6月予定
◇発行部数	約10万部
◇配布先	茨城県内の小学5、6年生及び県内各市町村
◇内容	防災教育にも活用できる内容で、東日本震災以来防災番組を放送している県と共同で制作



**県内を中心とした
企業・各種団体等
の協賛**

人の意識に訴える

■よりリアルな情報提供

良質なコンテンツ 新聞社の記事や写真素材を活用し、
一覧性を持たせることで、たゆまぬ広報に活かすことができる

■地域文化として醸成すること

地域活動者、災害の経験者等に防災について語ってもらったり、
ともに行動してもらったりする、仕組みづくりが必要ではないか